

参加報告書 (インドネシア・ブディルフル大学)

① 本プログラム参加のきっかけ・目的について (200 字以上)

・もともと海外の文化に興味があり一年生のうちからいろいろな経験をしたと思い、その時見つけたのが大学が主催するこのボランティアプログラムでした。その中でもなぜインドネシア、ブディルフル大学への留学にしたのかというと、アジアという日本と同じくくりの中にある国で文化の違いに触れたり日本語を生徒に教えるという経験をしたり、今発展途上国であるインドネシアの生活の様子を知りたいと思ったためです。また、ただ漠然と海外を経験したいと考えていた時は、留学や海外といったら欧米の国という偏見を持っていたため、インドネシアでボランティア経験ができると知り挑戦みたいと思い参加しました。

② プログラム内容について (各項目 200 字以上)

1. ボランティア活動・ワークショップについて

現地の大学と行ったボランティア活動は主に 8 つでした。インドネシアの材料を使ってたこ焼き作りのトライアルをしてみるとわかったら、現地のナースィングホームに行きたこ焼きを作ってバディーの付き添いでお話をすることから始まりました。高校生に対して日本文化を経験してもらうワークショップ（紙人形作り、プラスチックを使って作る風鈴づくり、たこ焼き作り、書道体験）このワークショップは計三日行いました。お弁当作り（インドネシアの現地の食材から伝統的な料理を作り現地の人に配る）この活動は 2 回。大学の外の道路にいる人たちにお弁当を配るというスタイルでした。日本食を配るプログラムが含まれていましたが、途中でなくなりました。また孤児院に行き子供と遊んだり、大学とかかわりのある家の壁をはがして、新しく絵を描くということもしました最後に大学の校庭での縁日フェスティバルを開催しました。本番は日本のお祭りのような外観で、たくさんの屋台を出すことができました。一つの屋台につき基本的に日本人一人とバディー一人が付くスタイルでした。現地の高校生を対象に開かれました。この縁日フェスティバルのプログラムが一番大きなイベントでした。

2. 授業（インドネシアの歴史や文化、インドネシア語）について

インドネシア語、（バハサ）の授業が全体で計二回あり、基本的な日常用語や質問形態などを学びました。バハサは世界で最も簡単な言語といわれていて、英語に文法が似ています。そのほかにもダンスの授業、歌の授業がありました。歌は *laskar pelangi*, *di sini senang di sana senang*, *halo-halo bandung* の三曲をならいました。両方とも縁日の時に浴衣を着て披露しました。またバディーたちと美術館に行き絵を鑑しました。その時にバディーが絵の背景を教えてくださいました。インドネシアはオランダの植民地だったため、ところどころにオランダを感じさせるような建物の外観があります。

3. フィールドトリップ（バンドンツアー）について

バンドンへはまず、新幹線に 30 分程度乗って行きました。到着したらインドネシアのアウトレッドに連れて行ってもらいました。お店の前で現地の人たちがものを販売していて、子供にも声を掛けられることがありました。そのあとに、場所を移ってショーを見ました。伝統的な衣装を着た人がダンスを踊ったり 100 人程度の子供たちが

歌を歌ったり、ダンスをしたりするショーでした。アングルンというきれいな音のする楽器をその場にいた人たちみんなまで演奏しました。ホテルは日本のホテルのような外観で、清潔感がありとても過ごしやすかったです。バスタブはありませんでしたが、ドライヤーは装備してありました。夜ご飯はイタリアンレストランで食べ、そのあと夜の街を少し散歩しました。日本人だけで夜の街を散歩することができないため、リット先生等付き添いで散歩をしまいました。お化け屋敷や、コスプレをした人たちが町にたくさんいました。二日目は朝散歩をし、カフェのようなお店でご飯を食べました。昼ご飯にインドネシアの伝統的なご飯屋さんへ行きました。フォークやスプーンがなく、手でご飯を食べる料理でした。実際に手で食べるのに食べ方があり教えてもらいましたが、むずかしかったです。ジャカルタとはまた違ういい経験ができた二日間でした。

③ 本プログラムへの参加によって得たこと、および感想（200字以上）

今回のインドネシアボランティア留学プログラムは私の初海外だったので、様々な面で不安と好奇心がありました。特に不安要因であったことは、ご飯が自分の口に合うかでした。しかし、実際にインドネシアの料理を食べてみると、日本食に味が似ている食べ物が多くあり、食についての問題はありませんでした。ただ、現地の料理は油をたくさん使うものが多いので私は結構胃もたれました。好奇心についてはインドネシアのバハサ語、文化等に関してです。自分が学んだバハサ語でワークショップに参加する高校生やバディーに話かけると喜んでもらったのでうれしかったです。また英語に関しては、バディー、現地の先生方と話す時に使いました。バディーの英語は私よりも圧倒的に上手で、つたない英語で話してもきちんと聞いてくれて、英語の分を直してくれるバディーもいました。いつもなら家でダラダラして過ごすことが多い夏休みで実際に日本ではない国を訪れて、異なる文化にたくさん触れ、貴重な体験をたくさんすることができ、とてもいい経験になりました。

④ 現地での生活等について（今後参加する学生へのアドバイス含む）

1. 滞在先の治安・キャンパス・施設について

基本的にバディーがどこへ行くのもついてきてくれるので治安の心配はいりません。外に出ると、知らない人に写真を一緒にとってほしいと言われることがあります。基本的日本と比べると、インドネシアの人たちは初対面の人でも距離が近いです。キャンパスは5階建てで、5階にあるミーティングの部屋で作業等を行いました。寮は二階建てで相部屋でした。夜エアコンをつけないと暑くて寝付きにくいのでエアコンをつけっぱで寝ていました。そのため喉やられます。のど飴を日本から持っていくことをお勧めします。

2. 食事について

昼が毎回大学側から支給でした。基本的に朝夜は自分たちで調達します。朝は大きなヨーグルトを買って毎朝一週間ほどで分けて食べたり、みんなでバナナを買って時間のない朝に食べたりしました。インドネシアの料理は油っぽい料理が多いいため、ヨーグルトといったおなかに負担をかけないものを買っておくといいと思います。現地にいる、鈴木みかさんという日本人の方ががヤクルトや朝ご飯用のパン等を支給してくれます。夜はGrab、(ウーバーイーツのようなアプリ)を使って配達を頼めます。大体200円～です。寮の近くには歩いて居十分かからない程度のところにマクドナルド、ヒーローズーパ、アルファマート(コンビニエンスストア)があるので、そこに買いに行くこともできます。ただ、インドネシアには信号がほとんどないため、道路を渡るときは気をつけてください。

3. 交通手段について

基本的に大学へは大学側が車を用意してくれます。自分たちでどこかへ行きたかったらGrabというアプリからタクシー等呼べます。日本円で 200~500 円ほどとても安いかったです。電車は一度乗ったけれどバディーが付き添う必要があります。また、一日カーフリーデーという日があって、車でその場所まで移動してひたすら歩きました。インドネシアではこのイベントが一週間に一回あるそうです。朝から昼頃まで歩きとてもあついで、部活着のパンツ等を履いていくことをお勧めします。私はバスパンを持っていきました。

4. 通信環境について

寮には WiFi があります。日本に比べたら通信速度は遅かったけれど、困る通信速度で困ることはなかったです。日本にいる家族とライン電話など、回線が切れることなくできました。先輩たちはみんなSIMカードで通信していたけれど、かさばるのが気にならなければ空港で借りることのできるグローバル WiFi が安くてよかったです。

5. 買い物事情について

基本的持っていくものを忘れたとしても現地で買えます。頼めばバディーの付き添いでいろいろなところに行くことができます。寮から歩いて五分ほどのところにコンビニやスーパーマクドナルド、ランドリーがあり便利です。

6. 医療事情について

しっかりしてる。私は一回も現地の病院でお世話になることはなかったから設備とかはよくわからないけれど、いた先輩によると、しっかりしていたそうです。薬もたくさんもらっていました。体調が悪くなったらすぐ病院へ手配してくれます◎。

7. その他、現地での生活等に関して、参考となることがあれば教えてください

大学側が今年から大学独自のインスタを積極的に扱うようになったため、たくさん動画をとられたり、インタビューを受けたりします。突然インタビューに答えてほしいと言われて、つたなくてもいいからそのまま英語ですぐに答えてと言われるので頑張ってください。

以上